資料 6-2
（報告）

◆令和２年度 取組方針（普及啓発ツール作成）

ア　広報ちがさき（欄外）について

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
河内委員	・あまり読まれていないと思われる広報紙、欄外記載しかできないか？	・担当部局とは、掲載当初から欄内での定期的な掲載を協議していますが、毎号掲載依頼が多くスペース確保ができない場合は次号へ先送りする状況となっています。追い打ちをかけるよう今年度は発行回数が毎月２回から１回へ減少している状況です。欄内での定期的な発信はとても厳しい状況となります。そのため、毎号２～３ページ欄外を固定と位置づけることで、継続的な発信に努めているところです。しかしながら、事務局としても、同様の認識がありますので、不定期となりますが、特集としての発信も検討します。
柏崎委員	・掲示場所が小さく、また文字も小さい。毎号ではないが本文の中にスペースを大きく取って掲示して欲しい。	前述の意見のとおり。
杉山委員	・目につきにくい欄外での事例発信ですが、広報に取り入れてもらえたことは良かったと思います。とにかく、繰り返し情報を発信し続けることが重要かと思います。令和元年１１月１日号から、障がい内容による事例を順番に発信していますが、目に触れていない読者も数多くいると考えると、新しい事例だけにこだわらず、過去に発信済みの事例を再度発信する価値が十分あると考えます。 ・録音奉仕会としては、広報音声版で福祉の欄の最初に読み込んでいます。願わくば、将来欄外から脱して、福祉の項の最初か、広報一面に入れてもらえることを期待します。	・前述の意見のとおり。録音奉仕会での活動は、市民部会の取組を周知する機会となりますので、引き続きご対応をお願いします。
斉藤部会長	・３月１日号から２巡目に入るのを記念し、これまでの「ありがとう…」の事例をまとめ、更にそれらに関連するイラストをつけ、小冊子（子どもにも理解できるような形式）にして配布してはどうでしょうか。	・これまでの事例を活かす方策の一つとなりますので、広報紙欄内の特集を含め、市民に向けた新たな発信を検討していきます。
藤井委員	・障がい者に関するマークの理解についてシリーズで広報する。①ヘルプマーク、②補助犬マーク、③ハート・プラスマーク、④オストメイトマーク、⑤白杖 SOS シグナル、等々	・欄外では、使用可能な色が「白」、「青」、「黒」と限定されているため、欄外での発信は誤解を招く可能性がありますので、前述の意見も踏まえ、欄内の特集に含め発信したいと考えています。

イ　デジタルサイネージ（市役所ＥＶホール）について

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
瀧井委員	・バリアフリー教室に参加した児童の描いた絵というのは、とても良いと思う。	・空き状況を踏まえ、継続的な発信をしていきます。
遠藤委員	・スマホでの筆談で、聴覚障がいの方とやり取りができるということを今回初めて知りました。身近にできるとても大きな情報なので、もっと普及すれば良いのに思います。	・空き状況を踏まえ、継続的な発信をしていきます。
杉山委員	・コロナ禍で、マスク着用で、多くの聴覚障がい者が口話での会話ができにくい状況です。スマホで会話できるというアピールは大きな効果につながります。以前に出したものでも同じ内容のものでも、何回も掲示できると良いのですが。	・マスク着用のイラストに修正し、対応します。継続的な発信となるよう広報部局と調整を進めさせていただきます。
海津委員	・主旨は良いと思いますが、マスク着けますか？…	・マスク着用のイラストに修正し、対応します。
斉藤部会長	・こうした情報提供に対し、市民や障がい当事者からの反応（関心）が分かると良いと思います。	・市民部会の取組について、市民から意見を伺う機会を検討します。

藤井委員	・スマートフォンのアプリで会話するより、筆記による会話の方が高齢者にとって理解しやすい。 ・バスの中と思いますが、次の駅名は前方に表示されますので、「事故があったようです」との内容が良いでしょう。	・既存イラストで、聴覚障がい者がヘルプマークを付け、学生が手持ちのノートを使い筆談しているシーンがあり、情報伝達の手段としてスマートフォンも活用できることを広く周知したく、あえてスマートフォンとしています。今後、イラストを作成する際にはいただいたご意見も踏まえ、取り組みます。

ウ　デジタルサイネージ（茅ケ崎駅自由通路）について

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
杉山委員	・コロナ禍のマスク着用で、口話に頼れない聴覚障がい者にとって、スマホでの意思疎通は大きな武器になります。スマホでの会話はコロナ後にもつながるツールになります。４か月という比較的長い掲示ができて効果が期待できます。	・デジタルサイネージ（市役所 EV ホール）と同様、マスク着用に修正し発信します。
海津委員	・主旨は良いと思いますが、マスク着けますか？…	
斉藤部会長	・こうした情報提供に対し、市民や障がい当事者からの反応（関心）が分かると良いと思います。	・市民部会の取組について、市民から意見を伺う機会を検討します。
藤井委員	・スマートフォンのアプリで会話するより、筆記による会話の方が高齢者にとって理解しやすい。 ・バスの中と思いますが、次の駅名は前方に表示されますので、「事故があったようです」との内容が良いでしょう。	・既存イラストで、聴覚障がい者がヘルプマークを付け、学生が手持ちのノートを使い筆談しているシーンがあり、情報伝達の手段としてスマートフォンも活用できることを広く周知したく、あえてスマートフォンとしています。 ・今後、イラストを作成する際にはいただいたご意見も踏まえ、取り組みます。

エ　かるたについて

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
柏崎委員	・具体的な内容のものを早く進めてください。年に１，２回でも駅前での広報宣伝等どうでしょう。	・市民部会の活動を広く周知するためには、駅前での広報宣伝も一つの方法と考えています。コロナ禍となりますので、感染状況を踏まえ引き続き検討します。
瀧井委員	・かるたに児童たちの絵は採用できますか？読み札と絵を一致させるのは難しいかもしれませんが。	・学校にも相談をし、心のバリアフリー教室とうまく連携できる方法を検討します。
杉山委員	・心のバリアフリー教室との連携強化のための方策での検討に賛成です。この場合、障がい当事者も交えて一緒に「かるた」作成することが大事なポイントになります。障がい当事者と一緒に作業することによって、相互の理解が深まります。バリアフリー教室の中の遊びの時間があると、交流の効果が大きくなりますので、その観点からの検討も良いのでは。	
海津委員	良いと思います。	・引き続き検討させていただきます。
藤井委員	・「交通環境編」（バリアフリー法で整備している街環境）、「障がい者理解編」、「市民の心のバリアフリー編」、「交通事業者の対応編」、「将来の夢編」（茅ヶ崎市の街環境、市民の理解等がうまくいって欲しい夢環境）等、分野別に作りこむのもありと思います。	・ご意見のとおり、分野別に作りこむことも良案と考えています。今後進め方について検討させていただきます。

オ　その他（デジタルサイネージやケーブルテレビ）について

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
瀧井委員	・来年度は無理かもしれませんが、再来年度でも小学校での取り組みが再開した時に、ケーブル TV に取材に来てもらえないでしょうか。	・小学校側と調整し、前向きな検討を進めます。
遠藤委員	・上記のスマホでの筆談は、バスの中での具体例イラストなので、是非バス内で掲示したらいかがでしょうか。	・市内コミュニティバスでの掲示は可能となりますので、準備が整い次第対応します。 ・路線バスでの掲示は、引き続き関係者と調整を検討します。
杉山委員	・デジタルサイネージについて、これまでの都市政策課のスピード感と手堅い取組を高く評価します。茅ケ崎駅通路や神奈中バス等、市役所以外での広がりが協議会参加委員の各団体の中へと更に広がれば、市内あげての取組になります。取組内容はデジタルサイネージにこだわらず、デジタルサイネージで使われているイラストのポスター化等で茅ヶ崎ならではの統一イメージが浸透できれば良いかと思います。	・次回の協議会の中で、議題として提案し、協議会委員が所属する団体への取組依頼、さらには特定事業計画で関わりがある民間事業者へ取組を広げるよう検討します。
藤井委員	・市民の心のバリアフリー活動をＮＨＫ等のテレビニュースで流してもらう。市民とは、部会員とは限定しません。茅ケ崎市在住の小学生、障がい者などが考えられます。	・ＮＨＫなどの全国的なテレビ番組で取り扱ってもらうことができれば、広く周知を図ることができますので、引き続き検討します。

カ　その他意見や新たな啓発ツール等の提案について

（名簿順）

発言者	内容	事務局の意見
水島委員	・意識啓発を図るものであり様々な機会に目に触れることが効果的です。協議会委員の団体・市役所内で協力いただけるところの調査・依頼はいかがでしょうか（広報紙の欄外程度）。	・次回の協議会の中で、議題として提案し、協議会委員が所属する団体への取組依頼、さらには特定事業計画で関わりがある民間事業者へ取組を広げるよう検討します。
上杉委員	・もし可能なら、市の「啓発デー」を決めて、本庁舎を何色かにライトアップするなど、一般市民が注目するようなイベントもいいですね（そこをきっかけに理解）。	・徐々にとなりますが、取組の幅を広げられるよう検討します。
瀬川委員	・茅ヶ崎市産業振興課が実施しているような、インスタグラムの活用は検討できないか？	・段階的な取組となりますが、普及啓発の幅を広げていくよう検討します。
牧野委員	・１２月に社協がやっている啓発週間と連動したらどうですか。	・１２月３日から９日までの障がい者週間の社協の取組をお聞きしましたが、今年度は例外的な措置をとるため、来年度の実施の際には連携が可能か調整を図ります。 市民部会の取組としては、サイネージの発信は可能となりますので、期日までにできることを進めます。
杉山委員	・デジタルサイネージで使われているピンクのイラストは、明るくて優しさに満ちています。市の統一イメージでポスター化して、市関連施設での広報化、商店街等で高齢者や障がい者に優しいイメージを与える来客を図る。ハガキ化、市の広報や封筒などへの掲載を通じて一般市民への理解を促進する。	・統一した発信とすることで、心のバリアフリーの取組とイメージしやすいよう発信の工夫をしていきます。
黒川委員	・本回答書の「報告（１）令和２年度普及啓発ツール作成の取組状況について」（１ページ目）の回答として記載した“（２）項の内容”をご参照ください。	・参考にさせていただきます。
海津委員	・マスクができない人のことを認める（許可する）ものがあると良いかと思います。	・引き続き、検討させていただきます。
斉藤部会長	・普及啓発のため多様なツールを活用した取組は大変良いと思いますが、市民がそうしいた情報提供に対し、どのような関心や評価を持っているかがわかると良いと思います。そうした市民の声を障がい当事者の反響を、今後の啓発ツール開発に向けての参考にすべきと思います。	・市民部会の取組について、市民から意見を伺う機会を検討します。